

渥美外海で漁獲されたドクサバフグについて

中野哲規・荒木克哉

(2024 年 11 月 26 日受付, 2024 年 12 月 24 日受理)

Green toadfish *Lagocephalus lunaris* (Bloch and Schneider, 1801) caught From Atsumi Outer Sea, Aichi Prefecture, Japan

NAKANO Tetsuki*¹ and ARAKI Katsuya*²

キーワード; ドクサバフグ, 愛知県初記録, 黒潮大蛇行, 南方系魚種

ドクサバフグ *Lagocephalus lunaris* (Bloch and Schneider, 1801)は、アフリカ東岸からオーストラリア北部までの沿岸に生息し、インド洋と西太平洋の熱帯域に広く分布するサバフグ属のフグである。¹⁾ 国内では、駿河湾で採集された記録があるが、紀伊半島以南で見られる場合が多い。

¹⁾ 本種は、シロサバフグ *Lagocephalus spadiceus* (Richardson, 1845)と形態が類似するが、筋肉、皮、精巣、卵巣が有毒である。²⁾

今回、2024 年 2 月 5 日に 1 個体、2024 年 9 月 26 日に 1 個体が渥美外海（西部遠州灘）で操業する小型底びき網

漁船によって漁獲された。これらの個体は愛知県海域における本種の初めての記録であり、漁獲場所や魚体測定結果についてここに報告する。

材料及び方法

入手したサンプルは、漁業生産研究所において外部形態の観察を行い、標準体長（体長または SL と表記）及び重量を計測した上で、松浦¹⁾により種同定を行った。その後、開腹し生殖腺の外観から雌雄判別を行い、生殖腺の湿重量を測定した。漁獲場所や水深については漁業者に聞き取りを行った。



図1 漁獲されたドクサバフグ

A: 2024 年 2 月 5 日に漁獲された個体 (SL: 217 mm),
B: 2024 年 9 月 26 日に漁獲された個体 (SL: 280 mm),
スケールバーは 100 mm を示す。

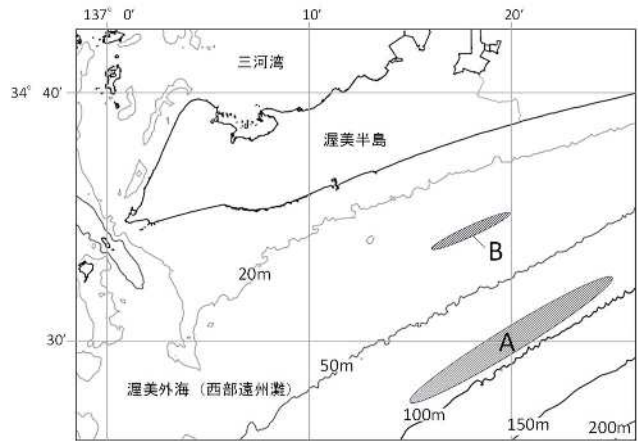


図2 ドクサバフグの漁獲場所

A: 2024 年 2 月 5 日, B: 2024 年 9 月 26 日を示す, 網かけ部分は漁業者への聞き取りから推測した漁獲された可能性のある範囲を示す。

*¹ 愛知県経済産業局産業部産業科学技術課 (Industry and Science Technology Division, Industry, Department, Bureau of Economy and Industry, Aichi Prefectural Governmental Office, Nagoya, Aichi, 460-8501, Japan)

*² 愛知県水産試験場漁業生産研究所 (Marine Resources Research Center, Aichi Fisheries Research Institute, Toyohama, Minamichita, Aichi 470-3412, Japan)

漁獲時の黒潮流路や水温分布を把握するため、一般社団法人漁業情報サービスセンターが提供する海象・気象情報サービス「エビスくん」から日報海面水温図を入手した。

結 果

本標本の外部形態を観察した結果、両眼の間から背鰭起部までの体背部は小棘に覆われ、小棘域は背鰭起部に達し、小棘に覆われた部分は長楕円形を呈していることが松浦¹⁾の記載と一致し、本種と同定した(図1)。

2024年2月5日に漁獲された個体は、東経137度15分～25分、水深75 m～90 mで小型底びき網漁船により漁獲され、体長217 mm、体重354.8 g、雄、生殖線重量0.8 gであった(図1A)。

2024年9月26日に漁獲された個体は、東経137度16分～20分、水深33 m～35 mで小型底びき網漁船により漁獲され、体長280 mm、体重825.7 g、雄、生殖腺重量8.3 gであった(図1B)。

考 察

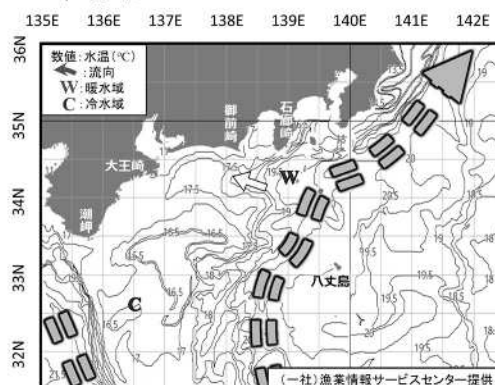
今回、渥美外海でドクサバフグが漁獲された際の海況を図3に示す(2月5日については2月2日の海況を示す)。2月2日、9月26日の黒潮流路は、両日とも大蛇行型のA型流路であり、石廊崎沖の黒潮の屈曲部から暖水が遠州灘沖に流入していた。近年の渥美外海付近における南方系魚種の出現について、2019年に三重県南部で漁獲されたシラヌイハタ *Epinephelus bontoides* (Bleeker, 1855)は、黒潮大蛇行の反流により沿岸部へ輸送されたと考えられている。³⁾ そのため、本標本も黒潮からの暖水の流入によって、渥美外海へ輸送されたことが示唆される。

渥美外海は、黒潮大蛇行のA型流路による暖水波及で高水温となることが明らかにされており、⁴⁾ 実際の観測による水温も、黒潮大蛇行が始まった2017年から高い傾向にある。⁵⁾ 今回、1個体は2月に漁獲されており、冬季の渥美外海は通常低水温になると考えられるが、A型流路の場合は、沿岸部の上層付近が高水温の黒潮系水に覆われる事例があることが分かっており、⁵⁾ このため、冬季であるにも関わらずドクサバフグが生存していたと考えられる。

国内に出現するドクサバフグは沿岸域に常時生息するものではなく、年によって来遊すると考えられており、⁶⁾ 渥美外海のドクサバフグについても、本海域に定着している可能性は低いと考えられる。しかし、今

後も黒潮大蛇行が継続し、暖水波及等の影響で本種が継続的に南方から輸送されれば、渥美外海で操業している小型底びき網漁やトラフグを狙ったはえ縄漁での本種の混獲が増加することが懸念される。そのため、形態が類似するシロサバフグ等の他のサバフグ属と混同して市場に水揚げしないように、漁獲物の選別に従事する漁業関係者への注意喚起が重要となる。

A 2024年2月2日



B 2024年9月26日

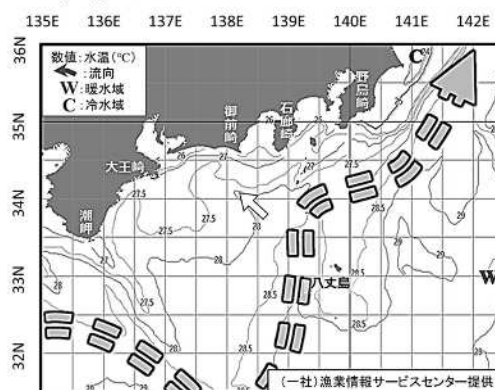


図3 ドクサバフグ漁獲時の黒潮流路と水温分布

謝 辞

本報告を取りまとめるにあたり、ドクサバフグの標本は、(有)豊浜屋の相川伸夫氏、幸榮丸の木原英明氏に提供して頂いた。また、愛知県水産試験場漁業生産研究所の中島廉太郎氏には標本の写真撮影、海況情報の入手に協力して頂いた。各位に心よりお礼申し上げる。

文 献

- 1) 松浦啓一(2017)日本産フグ類図鑑, 東海大学出版部, 神奈川, pp38, 42
- 2) 莊村明彦(2013)三訂日本近海産フグ類の鑑別と毒性, 中央法規出版株式会社, 東京, pp25
- 3) 荒井孝友・佐藤崇(2021)三重県南部から得られた本州初記録のシラヌイハタ. 魚類学雑誌, 68 (2), 151-

155.

4) 中村元彦・鵜寄直文 (2007) 西部遠州灘の海況と黒潮流路との関係. 水産海洋研究, 71 (3), 199-208.

5) 中野哲規・黒田伸郎・曾根亮太・中村元彦 (2023) 渥美外海における栄養塩の動態と黒潮流路の関係. 黒潮

の資源海洋研究, 24, 51-57.

6) 多部田修・道津喜衛・阿部倫久 (1986) わが国沿岸域におけるドクサバフグの出現. 日本水産学会誌, 52 (12), 2103-2105.